[サモアの概要]

SV 坪 谷 二 郎

[一般]

国名：サモア独立国（英語名：The Independent State of Samoa）
独立年月日：1962 年 1 月 1 日（祝賀行事は 6 月 1 日）
国連加盟年月日：1976 年 12 月 15 日
面積：2,831 平方キロメートル（東京都の 1.3 倍）
人口：(2001 年)　176 千人（うち約 80%は「村落（村）」に居住している)。なお、人口と同数以上のサモア人が海外に移住しているといわれる(内、ニュージーランドに 115 千人、アメリカン・サモアに 6 万人、ほかにオーストラリア、ハワイ、米本土など)。
首都：アピア（Apia：ただし行政区画上の都市ではない。人口約 40 千人）

主要民族：サモア人（ポリネシア系）93%、欧州系（混血）7%、中国系など
主要言語：サモア語、英語（ともに公用語）
主要宗教：キリスト教 99%（憲法上の国教）
平均寿命：69.8 才（年齢にかかわらず、糖尿病と高血圧症が多い）

国の紋章：国連の紋章（オリーブと地球）と、サモアを象徴するキリスト教の十字架、南太平洋・南十字星の絵柄を重ね合わせてある（国連の紋章は、国連統治の歴史を表わしている)。
国旗：左上 4 分の 1 を区切り、南十字星をあしらっている。白色は「純潔」、青色は「自由」、赤色は「勇気」を表わしている。

[政治]

- 政体：立憲君主制（行政権の所有者は首相）
- 国家元首：マリエトア・タヌマフイリ II 世大首長（His Highness Malietoa Tanumafili II)。91 才。温厚で、聡明。国民から敬愛されている。現国家元首は終身とされ、空席となったときは、4 つの高家、Malietoa、Tamasese、Mata'afa、Tuimaleali'ifano の称号（Royal Title）を保有する大首長から選ばれる（現・国家元首以外で、現在、Royal Title を保持しているのは、Afioga Tuiatua Tupua Tamasese Efi 元・首相のみで、次期国家元首の最有力者と目されている)。
- 首相：ツイラエパ・アイオノ・サイレレ・マリエレガオイ(Tuilaepa Aiono Sailele Malielegaoi)氏。議会で選出され、国家元首が任命する。任期 5 年。財務省、中央銀行の出身で、公認会計士資格を有する。透明性の高い会計監査の必要を唱える。
  高校、大学時代をニュージーランドで過ごした。
  補佐役の副首相兼財務大臣、ミサ・テレフォニ・レッツラフ(Misa Telefoni Retzlaff)氏はオークランド大学の出身で、ニュージーランドの弁護士資格とサモアの公認会計士資格を持っている。首相と同じく、財務省、中央銀行の出身で、やり手との評。
  現内閣は、各分野にエキスパートを配し、史上最強の布陣と評されている。

- 議会：一院制。国会議員の定数 49 人（うち 2 人は外国人枠)。任期 5 年。
  選挙権は 21 才以上の成人に与えられているが、被選挙権はマタイ(アイガと呼ばれる大家族の首長）に限られている。
- 地方政治：村単位の立法、行政、裁判は、村のマタイ全員で構成される評議会（council）が行っている。　村の数 362、マタイの数約 18,000 人（総選挙の度ごとに増えたといわれ、多すぎるとの批判もある。海外在住者も含む)。

・ サモアの政治の特徴：サモア独特のマタイ制度と近代民主主義をミックスした形。首相と閣僚は国会議員でなければならないという、完全な議員内閣制を採用している。歴史的・伝統的に、地方(村)の方が中央より強く、政府の威令が行き届かないこともあるという。
・ 主要政党：与党の人権擁護党（党首：Tuilaepa Aiono Sailele Malielegaoi・現首相)と、野党のサモア民主統一党（党首：Le Mamea Ropati—旧サモア国家開発党とサモア統一独立党が統合）などがある。

・ 国際関係：国連、IMF など、ほとんどの国際機関に加盟している。ニュージーランド（旧宗主国)、オーストラリアと緊密。英連邦（Commonwealth)、SPC（South Pacific Commission）のメンバー。

[司法]
・裁判所：一般の刑事、民事事件を扱う裁判所として、
治安判事裁判所（Magistrate's Court）— 軽微な事件を扱う
最高裁判所(Supreme Court) —上告審を扱う
控訴裁判所(Appeal Court) — 控訴審を扱う
の 3 つがあり、いずれも基本的に英国方式による裁判が行われる。
法体系や条文などは、ニュージーランドをモデルにしている（訴訟案件が多くて、裁判官が足りないときは、ニュージーランドから応援してもらっている)。

このほかサモア特有の裁判所として、土地および称号裁判所（Land and Titles Court）があり、土地の所有権やマタイの称号についての争いを扱う。

[経済]
・特徴：自給自足型ないし自家消費型経済。伝統的農業体質が強く、労働人口の 60%が従事（家内労働を含めると、人口の 80%が農業に関係しているという)。財政と貿易の赤字が恒常化。これを、観光収入、外国政府の援助、海外移住者・出稼ぎ者からの個人送金で補っている。それでも生じる不足は、内外借入で対応。典型的な「途上国」スタイル。

輸出振興、外国企業誘致などによる経済自立が課題だが、資源が乏しい上、海外市場から遠いこともあって、実現は容易ではない。
政府の重点施策は、インフラ整備、観光振興（Aggie Grey's によるリゾート施設建設中)、電話・郵便サービス拡充(Samoa Tel)、スポーツ大会誘致（2007 年・South Pacific Games の開催決定）など。
自然の産物が豊かなことから、一般に勤労意欲は低いとされる。サモア最大の企業・YAZAKI（日系）でも、従業員の欠勤率・離職率が高く、人事管理・社員教育は大変だという。

ここ一両年、経済成長の鈍化、インフレ率の上昇など、好ましからざる傾向が見えたところに、2004 年初頭、大型サイクロン "Heta" の来襲があり、農業を中心に大きな被害が出た。農産物価格は一時20～30%高騰したが、現在はかなり落ち着いた。ただし、石油を始めとする輸入諸物価の上昇により、2004 年の平均インフレ率はかなり高くなりそうだ。

・ 国内総生産（GDP、2002 年）：名目 898.4 百万タラ、実質 705.3 百万タラ（GDP の性質上、海外からの個人送金は含まれない)

・一人当たり GDP：1,060 米ドル（世銀統計）。国連開発計画上、サモアは LDC (Least Developed Countries：後発開発途上国)に分類される。
・経済成長率：5.0%（実質 GDP ベース、2003 年 6 月）、1998-2003 年 6 月の平均成長率 4.4%（参考：2000 年 6.9%, 2001 年 6.2%、2002 年 2.8%、2003 年 1-6 月 5.0%）
・消費者物価上昇率：2004 年 3 月の対前年同月比上昇率 17.0%
（参考：年平均上昇率; 2000 年 1.0%、2001 年 3.8%、2002 年 8.1%、2003 年 4.3%）
・対外債務残高：503.2 百万タラ(2001 年 12 月末)、〔内訳：アジア開発銀行 (ADB) 243.3、国際開発協会（IDA：第二世銀）172.8、 中国 42.3 など〕

・会計年度：7 月 1 日～翌年 6 月 30 日
・通貨単位：タラ（Tala） SA$=100 Sene
・通貨発行量：46.63 百万タラ（2003 年 12 月末）
・マネーサプライ：14.0%(M2 ベース、2003 年 12 月の対前年同月比)

・金利：（預金）普通預金 2.5～3.0%、定期預金（6 カ月）5.5～6.0%
（1 年）6.25～6.5% （銀行により異なる）
（企業向け貸出）
商業銀行：9.75～10.0%
その他金融機関：10.0～14.0% （以上 2004 年 6 月現在）
・為替レート：1 米ドル＝2.798 タラ（1Tala=0.3573 米ドル）、
1Tala＝39.50 円 （以上 2004 年 9 月 7 日現在、ANZ -TTB レート）

・主要産業：農業（主要産物は、コプラ、バナバ、タロイモ、ココアなど。果実は、パパイア、マンゴー、アボガドなど）、漁業（マグロは輸出向け。サンゴ礁周辺で獲る魚介類は自家消費が約 60%）、林業、観光、衣服縫製
・主要天然資源：熱帯木材

・給料、賃金：
*賃金水準は一般的に、日本の 8 分の 1 ないし 10 分の 1 程度。法律上の最低賃金は時給 1.6 タラ（約 64 円）。
*NUS の例：教員；26,157～49,698 タラ（1,046～1,988 千円）
（年俸） 上級事務員；14,555～36,328 タラ（582～1,453 千円）
一般事務員；7,485～10,449 タラ（299～418 千円）
*若い公務員や中学校教師、一般女子事務員の週給：150～200 タラ（6,000～8,000 円）。
*マネジャー・クラスの税関職員（女性）は年俸 14,000 タラ（560 千円）、会社勤めのご主人と合わせて年収 30,000 タラ（1,200 千円）と言っていた（それでも、親への仕送りと教会への寄付があるので、生活は楽ではないという）。
*会計士資格を有する政府職員の例：年俸 45,000 タラ＋手当 6,000 タラ。
*Chan Mow Supermarket の経理責任者の例：月給 3,500 タラ。

*サモアで最高給の職業は弁護士(Lawyer)、続いて宣教師(Reverend)、大分下って会計士(Accountant)という。

*政府関係者の給料は報償金込みで（年間ベース：2003 年予算）、国家元首 83,000 タラ（約 3,320 千円）、首相 124,000 タラ（約 4,960 千円）、財務相兼副首相 86,080 タラ（約 3,443 千円）、国会議長 67,800 タラ（約 2,712 千円）、国会議員（委員クラス）27,450 タラ（約 1,098 千円）となっている（注 1）。

報償金（注２）の中には、提供される自動車の費用なども含まれていると
され（人によっては２台分）、給料金額などの明細は公表されていない。
*官・民とも、職場により各種のベネフィット(benefit)が設けられているので、表面上の給料金額だけでは、実態はつかみ難い（注３）。

（注１）2003年9月27日付Samoa Observer紙による。
（注２）報償金（remuneration.：手当、ないし役得と呼んでもいい）は、かなり柔軟に使えるようで、金曜夜、JICA 近くのバーで飲んでいた若手公務員グループは、内緒だけどこの費用はremunerationだと言っていた。サモア版公用族というところか。
（注３）Central Bankに勤務する学生の場合、St. Marist小学校に通う男児の授業料、1 Semester 100TalaはCentral Bankが出しているという。
（注４）他の英連邦諸国と同じく、サモアも階級社会、資格社会の色彩が濃いから、オーストラリアやニュージーランドの大学で Bachelor Degree や Master Degreeを取得していれば、経験や業務遂行能力に関係なく、優秀な人材として評価され、政府や銀行などでは、入社早々から個室を与えられるという。

・年金：サモアの老齢年金は、65才から、２週間ごと（Fortnight）に、1人100タラ（約4,000円）。１ヵ月約200タラ（約8,000円）。無拠出制。
二重国籍保持者で、ニュージーランドの年金を貰いながら、サモアで暮らしているサモア人も結構いるという（注）。
自然の食物に恵まれ、大家族の誰かが働いて給料を稼いでくる。外国に出稼ぎに行っている家族からの仕送りもある。ストレスはなし。病気になったら、大家族みんなで支えてくれる。サモアはお年寄りにとっては、まさに「天国」といえる。

（注）ニュージーランドの老齢年金は６５才から支給される。単身の場合、週あたり NZ$234（マオリ族 NZ$250）。夫婦とも有資格者の場合、週あたりNZ$360。

[国家財政]
・政府予算（単位：百万タラ）

	2001/2002(実績)	2002/2003(予算)	2003/2004(予算)
収入：	290.8	305.2	318.4
内税収	182.7	206.5	224.1
援助	92.1	74.2	67.0
その他	16.0	24.5	27.3
支出：	308.6	322.7	332.4
内経常支出	183.3	207.3	208.0
開発支出	104.2	103.8	93.5
その他	21.1	11.6	30.9
差し引き不足	(-)17.8	(-)17.5	(-) 14.0 （注）

（注）不足分は、国際金融機関からの借入と、国内借入（中央銀行債発行）により調達する計画。

・中央銀行債発行残高：18.7百万タラ　（事実上の国債。2002年12月末）

[税制]

・租税の種類と仕組み：

所得税；収入額に対して、段階別に税額が決められている。

（具体例）Fortnight $385 Tala 以下は無税。Fortnight $500 Tala の税額は $11.50 Tala。Fortnight $1,210 Tala(税額 $185.40 Tala)を超えるものについては、税率 29%相当額が課される。

なお、税金や社会保険料は、勤務先が天引きの上、納付する（日本と同じ仕組み)。

法人税；所得金額に対して、一律 29%

付加価値税（消費税）；12.5%

その他；贈与税、相続税、関税など

[金融]

・サモアの金融機関には、政府機関としての中央銀行（Central Bank of Samoa)、政府系の開発銀行（Development Bank of Samoa)、民間の商業銀行 4 行（ANZ Bank、Westpac Bank、National Bank of Samoa、Samoa Commercial Bank)、保険会社（政府系生保の Samoa Life Assurance Corporation、民間損保の National Pacific Insurance など)、両替商（Western Union など多数)、金融会社、政府系の年金基金（Samoa National Provident Fund)、などがある。

・金融機関別資産シエアでは、商業銀行（4 行）が 45.8%でトップ(ANZ 27.2%、Westpac 11.4%、NBS 4.7%、SCB 2.4%)、次いで年金基金 24.8%、中央銀行 14.6%などとなっている。

・ 商業銀行の預金残高は 4 行合計で 346.87 百万タラ、国民 1 人当たり平均 2,040 タラ(81,600 円)となる。一般に国民の貯蓄性向は低く、民間の資本蓄積不十分。

・ 貸出先は、貸ビル業･建設業･不動産売買業向けが 40.2%でトップ、次いで商業向け 22.8%、専門職･企業サービス業向け 15.2%などとなっている。

土地の大部分が政府またはマタイの所有になっていること、企業の財務諸表が未整備であること、一般に「借りたら返す」という観念に乏しいこと、などから、銀行貸出は実務的に容易ではないようだ。回収不能・担保物権の処分も結構多いという。

（計数はいずれも 2003 年 12 月末現在)

[国際収支]（単位：百万タラ）

・実績：

	2003 年	2002 年	2001 年
輸出	44.3	46.3	52.6
輸入	(-)407.0	(-)454.2	(-) 448.8
(貿易赤字)	(- 362.7)	(- 407.9)	(- 396.2)
観光収入	147.7	143.6	132.3
海外からの送金	252.0	271.8	220.9
内個人	189.4	188.1	147.9
外国政府援助	62.6	83.7	73.0
その他	(-) 11.6	(-) 3.5	31.9
合計	25.4	4.0	(-)11.1

（注１）国内最大の企業・YAZAKI Samoa（日系）の輸出入計数は、政府統計上除外されている。政府の輸出・輸入統計では、「Excludes trade data for Yazaki and imports by foreign diplomatic missions in Samoa」となっている。
（注２）輸出はFOBベース、輸入はCIFベース。

・特徴：国際収支上、対外受取額の第１位は海外からの個人送金で、2003年には42%を占め、年々、増加傾向にある。次いで観光収入の33%、外国政府援助14%などとなっている。典型的な途上国スタイルで、輸出産業の未成熟が、経済的自立の妨げになっている。政府は観光業の振興を国の重点施策としており、国民もニュージーランドへの移民枠拡大とビザなし渡航を同国政府に要求している。

［貿易］
・輸出品目(単位：百万タラ)

	2003年	2002年	2001年
魚類	15.8 (35.7%)	29.0 (62.6%)	36.0 (68.4%)
衣服（縫製）	13.3 (30.0%)	4.4 (9.5%)	5.5 (10.4%)
ココナッツクリーム	3.0 (6.8%)	3.1 (6.7%)	3.4 (6.4%)
ビール	3.8 (8.5%)	3.9 (8.4%)	2.9 (5.6%)
ノヌジュース	2.0 (4.5%)	0.9 (1.9%)	0.6 (1.1%)
(以下省略)			
輸出合計額	44.3 (100%)	46.3 (100%)	52.7 (100%)

(特徴) かつての花形商品、ココナッツオイル、コプラが、国際価格の急落、為替変動（Tala高）、生産工場の操業中止などで激減。これに代わる魚類（マグロ）も、乱獲とエルニーニョ現象により漁獲高が大幅に減少している。この中で衣服が健闘。2003年にはノヌジュースが初めて５位に登場した（ただし原料不足で多くは望めない）。輸出品目の新旧交代が顕著。

・輸入品目（単位：百万タラ）

	1996年		1994年	
工業製品	64.4	(26.4%)	62.2	(30.7%)
食料品	63.3	(26.0%)	42.6	(21.0%)
石油製品	28.7	(11.8%)	20.9	(10.3%)
資本財	27.9	(11.5%)	23.8	(11.7%)
消費財	26.7	(11.0%)	21.9	(10.8%)
(以下省略)				
輸入合計額	243.7	(100%)	202.9	(100%)

(注)食料品、石油製品が増加傾向。

・輸出相手国（単位：%）

	2003年	2002年	2001年
米領サモア	42.3%	47.8	54.2
アメリカ（ハワイを含む）	21.4%	29.3	30.9
ニュージーランド	9.4%	9.6	6.2
イギイス	14.5%	0.2	-
オーストラリア	9.0%	3.9	2.3
日本	4.1%	1.5	0.4

(注)米領サモア、アメリカ向けの大部分はマグロ。

・輸入相手国（単位：%）

	2003年	2002年	2001年
ニュージーランド	36.0	33.6	34.4
オーストラリア	23.8	20.5	26.6
フイジー	8.0	14.2	8.7
アメリカ（ハワイを含む）	13.1	12.0	11.8
日本	4.2	8.0	6.6

[対外資産・負債残高および外貨準備高]（2003年12月末、単位：百万タラ）

・対外資産・負債残高

資産	233.1
負債	(-) 28.9
差し引き純資産	204.2

・外貨準備高　193.6百万タラ　（2003年12月末。月間輸入額の5.1ヵ月分）

[歴史]

・サモア諸島に人類が初めてやってきたのは、およそ3,000年前、東南アジアから太平洋を経て渡ってきたポリネシア人とされている。彼らの一部はその後、ハワイ諸島やフレンチポリネシア、ニュージーランドなど太平洋の各地に移動して行った（それでポリネシア人は、サモアを「心のふるさと」と呼ぶ）。

・950年ごろ、サモアはトンガ人の襲撃を受け、およそ300年間、トンガ王国の支配下におかれた。しかし1250年ごろ、長期にわたる戦争の末トンガ軍を撃退し、ようやくその支配から脱した。Malietoa（現・国家元首の称号）とは、そのときの「勇者」を意味する。

・サモア諸島を初めて訪れた西洋人は、1722年、オランダ人航海士、ヤコブ・ロッゲフエーンであったとされる。1830年には、ロンドン伝道協会（注1）の宣教師・ジョン・ウイリアムスが、同僚のチャールス・バーフ等を伴って、タヒチ経由、サヴァイ島に上陸。キリスト教の布教に努めるとともに、教育活動にも従事した（注2）。その後も多くの西洋人が来航、地元住民との交流を深めていった（注3）。

（注1）London Missionary Society

（注2）活動範囲は、サヴァイ島から、ウポル島、ツツイラ島（現在のアメリカン・サモア）に広がっていった。

（注3）文献によれば、伝道師以外で初めてサモアに定住した西洋人はオーストラリアからの脱獄囚や捕鯨船からの脱走者で、海辺部住民との間でトラブルを起こすこともあったという。サヴァイ島西海岸周辺に住む小さな子には金髪が多いというから、混血の子孫かも分からない。

・南太平洋近海での捕鯨やアザラシ猟が盛んになるにつれて、捕鯨船など、船舶の寄港が多くなり、サモア諸島の領有をめぐって、アメリカ、ドイツ、イギリスが激しく対立した。

・一方、サモア国内では、1840－50年以降、王位継承権をめぐり、高家のマリエトア、マタアッファ、タマセセの間で、血なまぐさい内乱が何度も起き、これに列強（アメリカ、ドイツ、イギリス）が、それぞれの後ろ盾として加担した。（サモアの歴史上、「暗黒の時代」とされている）

・この紛争を解決するべく、1889 年 12 月、ベルリンで国際会議が開かれ、サモア諸島は西経 171 度を境に、西側のドイツ領（Western Samoa、現サモア）と、東側のアメリカ領（American Samoa）とに２分されることが決まった。また、それまでの王制も廃止された。（サモア人の意思などは全く無視され、全て列強のエゴで決められた。この会議でイギリスは、他に植民地を沢山持っているということで、サモアについては無理に要求しなかったといわれている）

・これにより Western Samoa は、1890 年以降、ドイツの植民地となったが、1914 年、第１次世界大戦の勃発により、イギリス・ニュージーランド連合軍が侵攻してきて、ドイツ軍を駆逐し、占領体制を敷いた。ドイツの敗北に伴い、1919 年、ニュージーランドの委任統治領となり、さらに第２次世界大戦後の 1947 年、国連信託統治領となった。

・列強の強引な支配に対抗して、1930 年代以降、民族独立運動が起こり、第２次世界大戦へと進むに連れて、急激な高まりを見せた。そして 1962 年、ついに念願の独立を達成。南太平洋で初めて、かつ、ポリネシア人最初の独立国家となった（何事も、南太平洋地域で“一番”にならないと気がすまない、というプライドの高さが、「サモア人気質」という指摘もある）。

（注 1） 現在、サモアの国家元首・マリエトア家とトンガ王室とは姻戚関係にある。

（注 2） 第１次、第２次、両世界大戦を通じて、多くのサモア人がニュージーランド軍に従軍させられた。彼らはニュージーランド・オーストラリア連合軍に編入され、戦死者も多く出たという。サモアでも毎年４月２５日の ANZAC Day には、早朝５時半から国家元首も出席して、慰霊碑（時計塔）の前で追悼式が行なわれる（第２次大戦に従軍したサモア人兵士にとり、日本は戦争相手国ということになる）。

（注３） Western Samoa が独立するまでには、ニュージーランドとの間でいくつもの血なまぐさい事件が起きたという。反ニュージーランド運動も起きたが、2002 年 6 月 1 日の独立 40 周年記念式典に、ニュージーランドのクラーク首相が参列し、”Sorry, Sorry”と過去を謝罪したので、その後、反ニュージーランド運動は影をひそめた。

[社会]

サモアの社会は、マタイ制度を中心とする伝統が根強く残る一方、近年、国際交流の活発化、教育水準の向上、田舎から都会（アピア）への人口移動、消費経済の進展などにより、人々の社会生活に少しずつ変化が生じてきた。

以下、サモア社会の伝統的特徴と、変貌しつつある最近の様相を挙げてみた。

・誇り高く、見栄っ張りのサモア人

サモア人の祖先はポリネシア民族とされ、西方からやってきた人類はサモア諸島を通過して、広大なポリネシア（ハワイ、ニュージーランド、イースター島を結ぶ三角形の内側に広がる地域）の島々に散らばって行ったという。サモアが、「ポリネシアのふるさと」といわれる所以である。

太平洋地域の他民族、メラネシア民族や、ミクロネシア民族に対しては、強い優越感を抱いているという。また、南太平洋の中で最初に独立した国家ということあり、パプアニューギニアやフィジーに対する対抗意識は、かなり根強いものがあるようだ。

「サモア人はプライドが高く、見栄っ張り」。これが、サモア人に対する一般的評価になっている。長い人類の歴史の中で、このような特徴が形成されたのであろう（注 1）。現在では、白人系も中国人系も、ポリネシア人に同化し（かなり混血が進んでいる）、人種的争いもなく、同じサモア人として、なかよく暮らしている（注 2）。

(注 1) 肌の色（メラネシア人のように黒くはない)、顔の造作（美形が多い）ということも、微妙に影響しているという説もある。
(注 2) 文化人類学上、珍しいケースとされている。フィジーでは人種間の対立が絶えないという。

・マタイの権威は絶対である—

サモアの社会構造の基盤をなしているのが、アイガ（aiga）と呼ばれる大家族制(extended family）であり、その長（head of family または chief）がマタイ（matai）である。マタイにはそれぞれの名前（スアファ：suafa）がついており、このスアファに、アイガの土地占有権（ないし共有権。所有権ではない）が属している。

アイガは生活共同体であるとともに、相互扶助の意味合いも持っている。高齢者にはもちろん、病気、出産などの際には、家族みんなで助け合う。「年寄りの一人暮らし」などというのは、サモアでは絶対にお目にかかれない（かつて日本で美徳とされ、現在失われてしまったものが、サモアでは厳然として生きている)。

マタイの権威は絶対とされ、マタイの承諾なしには、財産処分も結婚もできないとされる。マタイ（正確にはスアファ）には階級があり、最高位（大首長：Paramount Chief）は国家元首である。マタイの正装は上半身裸（男性の場合)。身体の腹部、腕、大腿部に入れ墨をしている人が多い（女性マタイは膝上から大腿部まで)。マタイの地位継承をめぐり、身内同士で争うことが結構あるようだ（長男が継承するとは限らない。女性のマタイも結構いる)。

（注１）マタイはかつて酋長と訳されていたが、現在では首長または家長といっている。総選挙の度にマタイの数が増え、多すぎると問題になっている。
（注２）サモアは英連邦（the British Commonwealth of Nations）諸国に見られるように、階級社会の色彩が濃く、また、学歴社会でもあるから、マタイや、Reverend（略して Rev）に対しては勿論のこと、Ph D や Professor といった称号保持者に対しても敬意を表する。また、一般的に、年長者に対しても敬意を表する。
（注３）マタイ制度が厳然として存在するので、一見、男性上位の国のように思われるが、それは表向きだけで、実権、特にサイフは女性が握っているようだ。

・村には自治権が確立している—

20～50 のアイガが集まって、一つの村を構成する。村のことは全て村が決める。国の警察権も及ばない。小学校の運営も、バスの運行も村が行う。

村同士の対抗意識はかなり強く、国家行事には、村人が総出で参加する（揃いの衣装で、歌と踊りに繰り出す。ブラスバンドを持っている村もある)。事実上、大きな村の上級マタイが国会議員に選ばれる。人々の「村」への帰属意識は極めて高い。

（注）どこそこの村の小学校の校舎を建て替えたいので、JICA でお金を出して欲しいという陳情が、数多く寄せられているという。際限がないという感じである。私のところにも同僚教師から依頼が来るほどである。変わったところでは、教育学部学生の修道女から、宿舎の雨漏りがひどいので、JICA で助けて欲しいという要請もあった。

・教会の力が強い—

サモアはキリスト教を国教（Principle）と定めており、国のいたるところに立派な教会が見られる。人々は競って献金し、日曜日には、家族揃って教会に行く。政府の奨学資金を申し込むのに、教会の推薦状が必要なほどである。季節変化の殆どないサモアでは、教会の行事が、人々の生活のメリハリをつける役割を果たしているといえる。ただし、教会が直接、政治に関与することはない。キリスト教の影響力が如何に強くても、

マタイ制などの社会制度を変えることは出来なかったという—それほどマタイ制度や大家族制は強固であり、サモアの社会基盤を作り上げているといえる。

（注 1）サモアでは、１つの村に必ず１つ以上の教会がある。サモア人のほぼ半数が Congregational Church に属し、4 分の 1 が Catholic、残りは Methodist、Mormon などである。

（注 2）キリスト教の国らしく、会議でも、食事でも、先ずお祈りから始まる。

（注 3）宣教師の給料はサモアーといわれ、政府役人を辞めて、夫婦で宗教学校（4 年制高校）に入り直す人もいる。

・給料は自由に使えない—

働いて収入を得ても、その大部分（９割以上ともいう）は、父親や夫の手を経て、マタイの手元に集中され、アイガの生計にあてられる（一部は村や教会の維持にも使われる)。お金も、物も、みんなのもの。これがサモア人の社会文化である。しかしこのことが、人々の「やる気のなさ」にもつながっている。ただし最近は、西欧文化の影響で、アピア市内の一部には、核家族もみられるようになってきた。また、夫婦で働いて車を買ったり、家を建てたり、子供を私学に入れるということは、そう珍しいことではなくなってきた。(Polytechnic の会計課に勤務する、私のクラスの女子学生は、週給 200Tala。NUS よりもいい待遇だと喜んでいる。独身の彼女は、貰った給料全額を両親に渡し、その中から必要な分を貰うから、別段、困ることはないという。ただし一般の若者は、もっと自由にお金を使いたいと思っているようだ)

・海外からの個人送金が頼り—

海外移住者や出稼ぎ者からの個人送金は、サモアの国家収入の４割を占め、人々の生活にも、また国際収支上も、なくてはならないものとなっている。家族への送金は、サモア人の文化だという。海外移住と外国留学は、サモア人みんなの希望であり、夢でもある。サモア国民で、ニュージーランドなど他国のパスポートを複数持っている者は珍しくない。ニュージーランドの老齢年金をもらい、サモアに住んでいる人もいる（サモアの年金も少額だがもらえる)。なお、ニュージーランドでは現在、同国在住のサモア人に対する生活保護や失業手当の支給の是非が問題になっている（サモア人は仕事もしないで、政府の援助に頼っているとして)。

（注１）ジャーナリスト・青木 公氏の調査によれば、ニュージーランド在住のサモア人は約 13 万人（公表上は 115 千人。不法滞在者がかなりいるらしい)。仕事の殆どは３K という。低所得者の生活保護費は、週あたり 1 人 NZ$150。
4 人家族では 1 ヵ月、NZ$2,400（約 17 万円）にもなるから、働こうとせず、ブラブラしている人が多いと、地元では不評を買っている。貰った生活保護費の一部を、サモアにいる大家族に送金してくる人も結構いるようだ。
Islanders への援助のほか、マオリ族に対する優遇措置もあるから、ニュージーランド人の税負担が重くなり、白人の中には、オーストラリアやイギリスに逃げ出す人が増えてきたという。

（注 2）オーストラリアに居住するサモア人の数について Australian High Commission に照会したところ、70～80 千人ではないかとのことであった。過去の統計では数千人となっており、異常に感じられるが、その差については、ニュージーランドの市民権を持っているサモア人が、職を求めてオーストラリアに移住してくるため、かなり増えているという説明であった。しかし,確数はつかんでいないという（これは、アメリカン・サモアから、ハワイや米本土に移住している人々についてもいえることで、一体、海外に、サモア人が何人いるのかについては、統計上、はっきりしたものはないようだ)。

・女性の社会進出が目立つ—

官庁でも、会社や銀行でも、キャリアウーマンが大変に多い。男性の就職機会が少ないため、敢えて結婚を望まない女性も増えているという。大学卒の資格が昇進・昇給の条件になるとして、仕事を終えてから大学（NUS）で学ぶ女性も多い（NUS の商学部では約６割が女性。社会人の比率も６割。人気の科目は、会計学やパソコンなど実用性の高いものが多い）。

サモアでは、男女を問わず、出世の登竜門は会計士とされており（首相も、副首相兼財務相も、会計士協会のメンバーである）、給料条件もかなりいいようだ。

家計を助けるため、官庁や会社の勤務時間終了後、タクシーの運転手など、アルバイトに精を出す人も少なくない。

・自由結婚は難しい—

結婚に、両親やマタイの承諾が必要なのは当然だが、若し承諾が得られなければ、駆け落ちしたり、未婚の母になることもある（未婚の母は珍しくなく、子供はアイガで育てられる）。若い者は金が自由にならないから、どうしても、親の意見に従わざるを得なくなる。自由な結婚が出来ず、悩んでいる若者もいる。最近、一部（上流階級）に、結婚の条件として、家柄、財産、学歴、職業、収入などを問うケースが出てきたという（名門意識の芽生え）。

（注１）一般庶民の場合、男性がプロポーズのため、みやげ物（例えばコーンビーフやスパゲテイの缶詰）を持って女性の家を訪ね、親に気に入られれば、結婚を許されることもあるという。反対に、女性が妊娠していても、親が男性を気に入らなければ、結婚を認めないという（プロポーズをしに行った男性が女性の父親に殴られて、「赤ん坊はこちらで育てるから、２度と顔を出すな」と、追い返された例もあるという）。女性の親としては、相手男性の性格もさることながら、生活力が一番気になるようだ。

（注２）女性の結婚年齢は、昔の 16～18 才から、今では 25 才位になっているという。サモアでも晩婚化の現象が見られる。結婚を望まない女性も増えているという（ただし、結婚と出産とは必ずしも結びつかない）。女性の高学歴・高収入、家事からの解放、自由の謳歌、適齢期の男性の就職難と収入不足などが、その理由のようだ。

・金（カネ）はなくとも、貧しくはない—

自然の産物が豊かで、飢えの心配がない。働かなくても食べていける。これがサモアの社会生活の根底にある。酋長・ツイアビの言葉を借りると、“私たちはパパラギ（白人のこと）がいう「物」（人間が作ったもの。貨幣も）は持ってはいないが、神の大いなる心の造り出す「物」（自然の産物）はパパラギ以上にたくさん持っている。私たちの方が豊かなのだ”（「パパラギ」—立風書房—より）となる。

現代のサモア人もお金については、「あるに越したことはないが、無くても生きていけないわけではない」ということで、執着心はそれほど強くはないようだ（女子学生—殆どはママさん社会人—に、若し今、お金が沢山あったら、何に使うか聞いたところ、生活水準の向上、具体的には、「食事の改善（輸入食品の意味）」に使うという答えが圧倒的に多かった。今よりマシな自動車を買うという人は一人もいなかった。大金を持ったことがないので、このような主婦感覚の回答になったのだろう。ただ若い人達は、自由になる小金が欲しいらしい）。

・サモア人の「ふるさと」・サヴァイ島（Savaii）—

消費経済の進んだアピアとは異なり、サヴァイ島では今も、自然色の濃い、昔と変わらぬ生活振りという。サモア人にとってサヴァイ島は「ふるさと」であり、クリスマス

や新年には、海外からの帰省家族も含め、一族がサヴァイ島の親元に集まる。贈り物のマット（寝むしろ）と食料持参。まさに平和国家そのものである。ハワイやアメリカン・サモアに移住した人で、死後はサヴァイ島に葬ってくれという人も結構いるという（実際に遺体を飛行機や船で運んでくる）。また、Pago Pago 在住者（缶詰工場労働者など）で、気分転換のため、週末、Apia にやってくる人もいる（プロペラ機で 40 分）。この Apia でも、ほっとした気分になるらしい。

（注１）最近、サヴァイ島の活気がなくなった、という声を耳にすることがある。理由は、日系企業の YAZAKI が、島の若い女性をみんなウポル島の工場に連れて行ってしまったので、サヴァイ島には若い女性がいなくなってしまったからだという。YAZAKI は GDP の約 8%を生産するサモア最大の企業で、サモア人の現金収入上、大変な貢献をしているが、サヴァイ島民の評価は別のようだ。

（注 2）お葬式の時など、海外在住の親族も集まるから、全員揃うのに通常 1 週間はかかる。葬式そのものも年々派手になり、お付き合いの香典負担がバカにならないという声を聞いたことがある。

（注３）Hawaii は Savaii がなまったもの、ハワイのフラダンスはサモアの Siva がルーツという。小錦、武蔵丸、曙という元関取がサモア人の血を引いているというから、サモアと日本との関係は深い。
日本、ハワイ、サモアを結ぶ 3 角形を、Pacific Triangle と呼ぶ人もいる。

・資産家の出現、閨閥の誕生―

最近サモア人の中で、比較的豊かな暮らしをする階層が生まれてきた。一般の人たちではとてもいけないようなレストランで、家族揃って食事をする姿が結構見られる。派手な結婚披露パーテイや誕生会をする一族もいる。営々として築き上げてきたビジネス界出身者に多いようだ。彼らの中には結婚を通じて、閨閥作りを進めている人達もいる。政界や官界にも同じ動きがみられる（資産家は資産家同士、インテリはインテリ同士という結びつきが、結構多く見られる）。

・最近の社会問題―

麻薬取引、性犯罪、殺人、若者の自殺、不倫、ヤミ中絶、新生児の売買、未婚の母、夫の失跡、離婚、失業、就職難、成人病の低年齢化、交通事故の多発、環境汚染、高不登校率など、最近の社会問題は多岐に亘っている。犯罪の増加で刑務所は満杯という。

（注）このほか、サモアとニュージーランドをめぐる国際社会問題として、市民権をめぐる問題がある。多くのサモア人がサモア国籍（市民権）のほかに、ニュージーランドの市民権を持っている。これは、ニユージーランド政府が旧宗主国として、1924 年から 48 年までの間に生まれたサモア人とその子供に、自動的にニュージーランドの市民権を与えたことによる(Privy Council ruling)。その後は新法（Citizenship Western Samoa Act,1982）により移民枠を設け、現在、年間 1,100 名の移民を認めている。ニュージーランド在住のサモア人はニュージーランド政府に対し、移民枠の撤廃と、子孫としての有資格者 4 万人への市民権供与を要求しているが、一部政党は財政負担が大きいとして、“Islanders, Go Home” を主張しており、政府も難色を示しているので、実現性は薄い。問題の背景に、サモア人は働かないで政府の給付に頼り過ぎるという、ニュージーランド人の不満がある。

[日常生活]

・衣—男女とも、腰巻風のラバラバを着用。男性はシャツ（正装は背広、Y シャツにネクタイ)、女性はブラウスが一般的（正装はイヴニングドレス風のプレタシ)。ラバラバの下はショートパンツが普通。学生の制服の場合も同じ。海水浴の時もシャツを着用。肌を見せないのがこの国のルール。ただし最近は、日本の真夏と変わらぬ姿も見られるようになった。

・食—タロイモ、ブレッドフルーツ（パンの実)、青バナナ（以上主食)、パパイヤ、マンゴー、パイナップル、ココヤシなど自然の産物が豊富。それにニワトリ、ブタ、マグロなどの魚介類が加わる。最近は輸入缶詰のコーンビーフ、マグロ、サバ、スパゲテイが多くなってきた。パンとライスはごく普通。

・住—屋根と柱だけで壁のないファレ（Fale）が一般的。外壁のある家でも、内部は間仕切りのないのが普通。広い敷地に、夫婦用、子供用、来客用など、用途別のファレが点在する。トイレは外造りが多い。なお最近、アピアの山の手住宅地では、西欧風の一戸建て住宅が多く見られるようになった。住宅供給公社もローン付きで売り出している。

・家族—一般に子供の数は多く、10 人以上というのも珍しくない。子供達はみんなよく手伝い、協力し合う。母親が働きに出ても、アイガの誰かが面倒をみてくれる。男性の職場が比較的少ないためか、専業主夫がかなりいるという。アピア市内では、核家族化の現象もみられる（それでも、親への仕送りは欠かさない)。

[教育]

・教育制度：8・3・2 制（ただし学校により多少異なる。飛び級がある反面、留年も多い)。
学校は公立のほか、多くの私学があり、近年、私学志向が高まっている（ミッション・スクールや Robert Louis Stevenson などの有名私学は、授業料は高いが、小学校から英語による授業が行われ、大学進学・海外留学に有利とされている)。
最近、教育上の問題点として、教員不足が指摘されている（特に英語教師)。理由は低賃金にあるようだ。

・義務教育年限：Year 1（5 才）から Year 11（12～13 才）まで

・初等教育（Primary Education)：就学率　99%
Primary School は、Year1 から Year8 まで。公立学校ではサモア語主体の授業が行なわれる。英語は中等教育への橋渡しとして学ぶ。

・中等教育（Secondary Education)：就学率　45%
Year9 から Year11 までの Secondary School と、Year9 から Year12 または Year13 までの College とがある。基本的に英語で授業が行なわれる。
大学進学を希望する者は、Year 13 末に行われる PSSC(Pacific Senior School Certificate－南太平洋諸国・地域共通試験)を受けなければならない。
成績上位の者は、政府の奨学資金を得て、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー（南太平洋大学）など、海外の大学に留学する（年間 70～80 名。年々減少傾向にある)。最近、学校差が広がってきたといわれる。

・高等教育（Tertiary Education)：就学率　不明
① サモアの高等教育機関には、南太平洋大学（USP：本部 Fiji）Alafua 分校（農学部)、サモア国立大学（NUS)、技術専門学校（Samoa Polytechnic）がある。このところ、通信教育などでの、USP の積極活動が目立っている。

② サモアの高校新卒者（約 3,000 人）のうち NUS の FY（旧 UPY：基礎課程）に入るのは約 9%（PSSC の成績が一定基準に達している者は入学できる）。
海外留学者を除く旧 UPY 修了生は自動的に NUS に進級できるが、NUS には社会人も別の基準で入学してくるため、大学進学の全体像はつかみ難い（科目別履修で、何年かかって卒業してもいい仕組みになっている）。

③ UPY から NUS に進学せず、USP・Alafua 分校に進学する者は、国内留学扱いになる。

（高等教育をめぐる問題点）

i）旧 UPY 学生の科目不合格者（いわゆる単位不足者）が増加傾向にあり、修了に２年以上かかる者が 25%以上に達している。

ii）最近、旧 UPY 出身海外留学生の高落第率が問題になっている（特に Commerce と Science）。その理由として、基礎学力不足、生活環境の急変、異国での開放感、などが考えられるが、現在のところ、十分な問題究明と対応策は講じられていない。

- 成人識字率：98%

- 平均登校率（Average Attendance）：69%（UNDP への報告数字。ただし、不登校率 31%は余りにも高すぎるとして、現在、政府において、数字の出所と正確さについて再調査中とのことである）。

[国防]
国防軍はない。有事の際は、ニュージーランドとの友好条約に基づき、同国が支援することになっている。沿岸警備は、サモア警察が担当している。

[国名の由来]
「聖なる鶏（Sacred Chicken）」という説と、「モア神の聖なる国」という説の２つがある。

[日本の無償援助実績]
（1）一般プロジェクト ：19,811 百万円　（1977-2003 年の累計額）
・アピア港拡張工事　2,293 百万円　（2000-2003 年）
・NUS 校舎建設　1,772 百万円（1995-1997 年）
・アピア港改修　1,603 百万円（1988-1989 年）
・サイクロン被害に伴う港湾改修と護岸工事　1,596 百万円（1991-1992 年）
・フエリーボート建造（“Lady Naomi”）　1,443 百万円（1997 年）
（“Lady Samoa Ⅱ”）　673 百万円（1987 年）
・フアレオロ国際空港ターミナル建設　1,082 百万円（1985-1986 年）　など

（2）「草の根」プロジェクト：11,279 千タラ　（1991-2003 年の累計額）
・サレイモア小学校校舎建築　422 千タラ（1995 年）
・国立病院歯科治療設備　279 千タラ（2001 年）
・NUS 視聴覚設備　273 千タラ（2001 年）
・タエレフアガ小学校校舎改築　265 千タラ（2001 年）
・アレイパタ中等学校校舎改築　265 千タラ（2002 年）
・ルアツアヌー小学校校舎改築　258 千タラ（2002 年）　など

【参考 1】太平洋島嶼国・地域比較

	人 口	1人当たり GDP	主要産業	輸出品目
クック諸島	14.3	4,950	観光、真珠養殖	真珠
ミクロネシア連邦	118.1	2,070	コプラ、漁業、観光	海産物
フィジー	824.7	2,680	砂糖、コプラ、米、金。観光、牧畜	砂糖，衣料、金、魚介類、木材
キリバス	90.7	700	コプラ、野菜、漁業	コプラ、なまこ、鑑賞用魚
マーシャル諸島	51.8	2,210	コプラ、漁業	冷凍魚
ナウル	11.5	3,900	リン鉱石	リン鉱石
ニウエ	1.9	3,710	蜂蜜など（小規模）	
パラオ	19.1	8,030	観光、漁業	食料品、軽工業品
パプア・ニューギニア	4,790.8	1,200	原油、天然ガス、金、銅、コーヒー、ココア、ココナッツ、木材、漁業	原油、金、木材、コーヒー、銅、パーム油
ソロモン諸島	447.9	340	コプラ、パーム油、ココア、木材、魚類	木材、魚介類、パーム油、ココア
トンガ	100.2	1,870	カボチャ、ココナッツ、バナナ、コプラ	カボチャ、魚介類、バニラ豆、根菜類
ツバル	9.9	1,160	コプラ、タロイモ	衣料、コプラ
ヴァヌアツ	199.8	1,230	コプラ、ココナッツ、ココア、漁業、冷凍品、缶詰、観光、金融（Tax Haven）	コプラ、牛肉、木材、ナス・カボチャ
サモア	169.2	1,060	コプラ、ココア、バナナ、タロイモ、木材、観光	ココナッツ、コプラ木材、バナナ、自動車部品
（参考）				
アメリカン・サモア	70.2	8,000	缶詰、カン飲料、観光	

（注１）人口単位： 千人、１人当たり GDP の単位： 米ドル。いずれも「世界銀行 2002 年レポート」による。

（注２）GDP(Gross Domestic Product:国内総生産)とは、国内で生産された財・サービスの総額をいい、市場価格が基準になっている（市場を通さない自家消費は、統計に表れない)。また GNP(Gross National Product:国民総生産)は、GDP に海外進出企業の経済活動によって得られた所得（受け取り）を加え、反対に国内外資系企業の経済活動によって得られた所得（支払い）を差し引いて算出する。最近では、国内の純然たる経済活動の動向をつかむには、GNP より GDP を使った方が適当であるとして、国際的にも GDP 統計が主流になっている。なお、サモアのような自給自足経済の国では、生産された財・サービスのうち、ウエイトの大きい農産物・魚類について、大半が市場を通さず自家消費されるので、GDP は実際よりもかなり小さく算出されることになる。

なお、政府統計上、Yazaki Samoa の輸出入金額は除外されている（Yazaki 側では、同社の売上高はサモアの GDP の約 8%といっている)。

（注３）主要産業と輸出品目の出典は、外務省編「世界各国要覧」。

【参考 2】太平洋島嶼国・地域に対する諸外国の援助額
（1999-2000 年平均、単位：百万米ドル）

（国別）	
フランス	747
オーストラリア	232
アメリカ	161
日本	151
ニュージーランド	74
EU	45
ドイツ	5
（開発銀行別）	
アジア開発銀行(開発資金)	26
世界銀行（IDA 経由）	8
（国連機関別）	
UNTA	13
UNDP	4
UNICEF	3

（資料）OECD 2000 レポートより
（出所） PACIFIC MAGAZINE ・July 2003

【参考 3】太平洋島嶼国・地域に対する開発銀行の融資額

	世界銀行（注１）	アジア開発銀行（注２）
パプア・ニューギニア	1,327	849.3
フイジー	277	161.1
ソロモン諸島	59	79.3
バヌアツ	23	51.3
サモア	87	113.9
トンガ	12	42.9
キリバス	—	15.1
マーシャル諸島	—	71.1
クック諸島	—	26.7
ミクロネシア連邦	—	56.1
合計	1,785	1,466.8

（注１）1945-2002 の融資額、単位：1998 年の米ドル・百万ドル。（世界銀行の正式名称：国際復興開発銀行）
（注２）2001 年末融資残高、単位：米ドル
（注３）両銀行に対する日本の出資比率：世界銀行 6.7%、アジア開発銀行 16%（日本は最大の出融資国）。
（資料）世界銀行、アジア開発銀行、IMF の資料より
（出所）PACIFIC MAGAZINE・July 2003

【参考４】オーストラリア・ニュージーランド・日本の太平洋島嶼国・地域に対する援助額

	オーストラリア (2002-2003年、AU$・million)	ニュージーランド (2003-2004年、NZ$・million)	日本 (2002年・ODA、US$・million)
パプア・ニューギニア	352.0	9.4	1.7
ソロモン諸島	36.2	14.0	-2.1
ナウル	24.3	—	以下
バヌアツ	22.1	5.9	1.3
フィジー	15.9	4.1	15.6
サモア	15.8	8.3	13.1
トンガ	11.4	5.7	3.8
キリバス	11.1	3.1	8.7
クック諸島	1.5	6.2	以下
ツバル	—	2.1	8.0
ニウエ	—	8.3	以下
マーシャル諸島	—	—	4.4
ミクロネシア連邦	—	—	8.1
ニューカレドニア	—	—	—
パラオ	—	—	14.7
トケラウ	—	8.6	—
その他	0.9	—	—
合計	491.2	75.6	77.7

（注）日本の援助額は、無償資金協力、技術協力、政府貸付の合計額（実支出ベース）
（資料出所）オーストラリアはPACIFIC MAGAZINE・March 2003
ニュージーランドはPACIFIC MAGAZINE・October 2003
日本は外務省国際協力局編　ODA白書より

２００４年９月１０日改訂